

荒葉一也 Ocini Initiative: <http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ブログ「アラビア半島定点観測」: <http://ocin-japan.dreamlog.jp/>

ブログ「内外の石油情報を読み解く」: http://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

マイライブラリー: 0416

(注)本稿は 2017 年 6 月日から月日までの回にわたりブログ「アラビア半島定点観測」及び「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

カタール GCC 離脱(Qatarexit)の可能性も:カタールとサウジ国交断絶

2017.7.24

荒葉一也

目次	頁
1. サウジがカタールに断交通告	1
2. カタールのプライドをズタズタにしたサウジアラビア	3
3. ジレンマの米国:武器は売りたいし、基地は借り続けたし	4

1. サウジがカタールに断交通告



6月5日(月)早朝、サウジアラビアが隣国カタールに国交断絶を通告した。ほぼ時を同じくして UAE、エジプト及びバハレーンも同様の通告をしている¹。このうちサウジアラビア、UAE、バハレーンの3か国はカタールと同じ GCC の構成メンバーであり、いずれもアラブ民族のイスラーム・スンニ派国家である。国の規模で見ればカタールは人口わずか220万人。MENA(中東北アフリカ諸国)の中ではバハレーンに次いで人口が少なく、しかもそのうち自国民は40万人足らずで残り8割強は出稼ぎの外国人労働者である。これに対してサウジアラビアの人口は3,200万人、エジプトに至っては9,200万人である²。また国土の面積もサウジアラビア及びエジプトがそれぞれ200万平方キロ、100万平方キロに対してカタールは1万平方キロに過ぎない³。

今回の断交はサウジアラビアが主導してエジプト及び UAE がこれに同調したことは間違いない。それが証拠に国交断絶の3日前、アブダビのムハンマド皇太子がサウジアラビアを訪問、サルマン国王と会談している⁴。そして4日にはサウジアラビアのジュベイル外相がエジプトを訪問し同国外相と会談を行ったと報じられている⁵。いずれの会談もその詳細は明らかにされていないが、推理するとカタールとイラン或いはイスラム過激派のテロ組織と名指しされているムスリム同胞団の間に何らかのつながりがあるとする証拠を UAE がサウジアラビアに提示し、それを重大視したサルマン国王がエジプトに働きかけて4か国同時に断交を通告したのと考えて間違いないであろう(バハレーンは国防・経済面でサウジアラビアに全面的に依存しており、サウジアラビアの決定に対しては無条件に従う)。

UAE は国際自由都市ドバイに中東の情報が集まり⁶、イラン及びムスリム同胞団の動きに通じているものと考えられる。イランはサウジアラビアの仇敵であり、イスラム同胞団はエジプトの軍事政権が最も警戒している勢力である。またシーア派が国民の7割以上を占めるバハレーンでは少数派であるスンニ派・ハリーフア王家がイランの影におびえている。そして UAE はペルシャ(アラビア)湾のアブ・ムーサ島など三島の領有権をめぐるイランと係争中である。

一方、カタールはハマド前首長の時代から全方位外交を掲げ、イランはもとよりかつてはイスラエル通商代表部の設置を認める等、他の GCC 諸国とは明らかに異なる自主外交を打ち出してきた⁷。カタールの独自性を象徴するのがアル・ジャジーラ・テレビである。世界でその名を知らない者がいないほど有名なアル・ジャジーラはかつてはサウジアラビア、エジプトなど中東各国の神経を逆なでするような報道を繰り広げた。それが中東諸国の庶民の心をとらえ、また欧米各国からも高い評価を得て、カタールとハマド首長(アル・サーニー家)の名声を高めた。しかしそれは他のアラブ諸国を敵に回すことでもあり、各国がアルジャジーラ支局の閉鎖を命じたことも再三であった。現在アル・ジャジーラは比較のおとなしくなったとは言え、他のアラブ諸国の統治者にとっては警戒すべき煙たい存在なのである。

このように見ると今回の断交はサウジアラビア、エジプト、UAE(そしてバハレーン)が寄ってたかって小国のカタールを締め上げているという図式になる。現在両陣営は他の MENA(中東北アフリカ)諸国を味方に引き入れようと活発な外交を展開している。4か国に引き続いてイエメン、リビア(但し東部地区のみの支配政権)、モルディブ、モーリシャスもカタールに断交を通告した。さらにモーリタニアも追随、ヨルダンは外交関係のレベルを下げ、アル・ジャジーラ支局の免許を取り上げた⁸。一方のカタールはトルコに働きかけ、エルドガン大統領からカタールの立場に理解を示すとの言質を取り付けた。両陣営は米国及びロシアにも働きかけているが、トランプ大統領もプーチン大統領も両陣営が外交的努力により平和的に解決するよう諭すだけで態度を明確にしていない⁹。中東情勢が複雑で混迷を極めているため米国、ロシアのいずれもどちらか一方に肩入れできる状況ではなく、特に米国はカタールに空軍基地を持ち、他方サウジアラビアは米国製兵器の最大の顧客である¹⁰ため板挟みの状態にある。

GCC6か国の中で当事国以外の国はクウェイトとオマーンの2か国のみである。このうちクウェイトは仲介に乗り出し、サバーハ首長はカタールのタミーム首長と電話会談の後、リヤドに乗り込んでサルマン国王と協議している¹¹。サウジアラビアとカタールの争いの根は案外深く両国が仲直りするのは時間がかかりそうだ。そして GCC の残る一国オマーンはだんまりを決め込んでいる。そのオマーンがイランと特別な関係を維持していることは世界中の国々が知っている。

今や GCC はバラバラになりつつある。このためカタールが GCC を脱退するシナリオがかなり現実味を帯びている。世界を見渡すと自国の利益を優先させるため国際的な枠組みを無視或いは排除する傾向が顕著である。米国のトランプ政権は TPP 及び気候変動パリ協定(COP21)から離脱した。そして英国は EU からの離脱を決定、Brexit なる新語が生まれた。次なる新語は Qatarexit(カタールの GCC 離脱)になるかもしれない。Qatarexit は規模こそ Brexit よりはるかに小さいが国際経済に与える影響はけっして小さくない。

2. カタールのプライドをズタズタにしたサウジアラビア



6月5日のサウジアラビア、エジプト、UAE 及びバハレーンによるカタール断交の真の仕掛け人はサウジアラビア・サルマン国王の6男ムハンマド・ビン・サルマン(略称 MbS)だとするのが衆目の一致した見方である。その MbS は21日、副皇太子から皇太子に昇格し名実ともにサウジアラビアの No.2になった¹²。サルマン国王が甥のムハンマド・ビン・ナイフ(MbN)皇太子を解任し、自分の息子にすげかえたのである。サルマン国王が皇太子を交代させるのは昨年4月の異母弟ムクリン以来二度目のことである。2015年1月の即位からわずか2年半の間に異母弟と甥を次々と解任し息子の MbS を皇太子にしたこと

とは極めて異例のことであり、これによってサルマン国王はサウジアラビアの王位継承を自分の直系に絞ったことになる。

サウド家の王位継承問題は本稿のテーマから外れるので稿を改めて論ずることにするが¹³、皇太子就任により MbS に絶大な権力が集中することになった。MbS は既に国防相の地位にあり、外交についても腹心(イエスマンと言うべきかもしれない)のジュベール外相を手足として動かし、経済面では 2030 年までに石油依存体質から脱却するとして無謀ともいえる野心的なビジョン2030計画を打ち出している。石油政策についても MbS は全権を握っており、非 OPEC のロシアと協調減産体制を作り上げたことに MbS の強い意向がうかがえる。Falih 石油相は実務を取り仕切るテクノクラートの域を出ず、むしろその権限はナイミ前石油相時代よりも縮小していると言えそうである。

サウジなど 4 か国によるカタール断交宣言に続いて世界を驚かせたのは、6月22日、4 か国がカタールに 13 項目の要求書を突きつけたことである。その要求とは次のようなものであった¹⁴。

1. イランとの外交関係のレベルを下げ、イランにあるカタールの事務所を閉鎖すること。
2. ムスリム同胞団、イスラム国、アルカイダ、ヒズボラーなどのテロ組織と関係を断つこと。
3. アルジャジーラ及び関連事業を閉鎖すること。
4. Arabi21 などカタールが資金援助しているニュース局を閉鎖すること。
5. トルコ軍の駐留を直ちに中止すること。
6. サウジ、UAE、エジプト、バハレーン、米国、カナダおよびその他の国がテロリストと認定している個人、組織に対する資金提供を直ちに停止すること。
7. サウジ、エジプト、UAE 及びバハレーンがテロリストに指名している人物をそれぞれの国に引き渡すこと。
8. 各国の主権である国内問題への干渉を止めること。
9. サウジ、エジプト、UAE、バハレーン各国内の反政府勢力との接触を断つこと。
10. 最近のカタールの政策により逸失した生命その他の損失を補てんすること。
11. 2014 年のサウジアラビアでの合意に沿って他の湾岸及びアラブ諸国と軍事的、政治的、社会的及び経済的に同調すること。
12. 10 日以内に要求に従わない場合はこのリストは無効となる。

13. 合意した場合は最初の 1 年間は毎月、2 年目以降 10 年目までは 3 か月ごとに実施状況の監査を受けること。

通常の外交文書でこれほどまでに一方的で強硬な要求は例がないと言えよう。32 歳という若いサウジ皇太子の性急さと外交慣例とカタールの主権を無視した姿勢には驚くばかりである。カタール側が直ちに反論したのは当然である。サウジアラビアの MbS はカタールのプライドをズタズタにしたのである。

10 日間の期限内にカタールが全面的に要求を飲むことは考えられず、サウジ側も要求を取り下げることとは無いであろう。多分第 12 項にある通り 10 日後に要望は無効となるのであろう。それでも MbS は要求を出した事実が残ることで成果があったと強弁するのであろうか。結局残るのは GCC の深い亀裂だけではなかろうか。年末には毎年恒例の GCC サミットが開催されるはずである。その頃には恐らく IS(イスラム国)は壊滅しているであろうが、テロ拡散という新たな問題が発生することは間違いない。GCC の盟主サウジアラビアは自国を含め GCC6 か国の君主制国家の安全をどのように考えているのであろうか。

3. ジレンマの米国: 武器は売りたいし、基地は借り続けたし



カタールに断交を突きつけたサウジアラビア、UAE、エジプト及びバハレーン 4 か国、いわゆる「対テロ 4 国同盟」(Anti-Terror Quartet、略称 ATQ)は、6 月 22 日、カタールに 13 か条の要求を突きつけ、その回答期限を 10 日間とした。アルジャジーラ放送局の閉鎖、トルコ駐留軍の撤退などを求めた強硬な要求に対してカタール側は「拒否する以外に選択肢のない要求である」と強く反発した。

同じ GCC の一員であるクウェイトが仲介役として乗り出しサバーハ首長はリヤドとドーハの間でシャトル外交を繰り返している。しかし諸外国にとっては所詮 GCC 君主制国家の内輪喧嘩であり、当事者同士で話し合い解決するのがベストと見ている。先進国の中では最も利害関係が深い米国のホワイトハウスも当初は「Family issue (家庭の問題)」と突き放した姿勢であった¹⁵。

しかし問題解決の糸口を見い出せないまま ATQ4 か国とカタールは互いを非難し、自らの正当性を主張する PR 合戦の様相を呈している。これ以上事態がエスカレートし、万ーペルシャ(アラビア)湾からの石油或いは天然ガスの供給に問題が生じれば日本、中国、インドを含むアジア各国は大きな影響を受けることは間違いない。日本の場合、サウジアラビア、UAE に石油を、またカタールに天然ガスを頼っているため、どちらか一方の肩を持つ訳にはいかない。日本自身が調停に乗り出す可能性もないではないが、世界的に石油・天然ガスは余っており中東以外からも買い付けやすい状況を考えれば、ここは下手に調停役を買って出た挙句どちらか一方から恨みを買うという最悪のリスクを考えれば静観するのが得策であろう。

ところが米国のトランプ政権はそのまま「Family issue(家庭の問題)」として静観ばかりしてられないようである。エネルギー需給の面だけで見ればシェール・オイル及びシェールガスの増産により米国はエネルギーの自給率を高めており、サウジアラビア・UAE の石油或いはカタールの天然ガスは米国にとって大きな問題ではない。

それでは米国にとってこれら湾岸の国々に対する死活的利益が何かと言えばそれは「軍事的利益」なのである。わかりやすく言えばそれはサウジアラビア(及び UAE)にもっと多くの武器を売りつけることであり、一方カタールに対してはウデイド空軍基地を、またバハレーンに対しては海軍基地を引き続き利用できることなのである。

トランプ政権にとって武器の輸出拡大は国内産業を活性化し雇用を確保することにつながり選挙公約を実現する手段となる。そしてペルシャ(アラビア)湾に自国の空軍基地、海軍基地を維持することはイラン、トルコ或いはロシアににらみを利かせイスラエルを支えるという「偉大な米国」或いは「アメリカ・ファースト」政策にピッタリなのである。付け加えて言うなら民主党政権を破り共和党政権を樹立したトランプは中東から太平洋に軸足を移そうとしたオバマの足跡を消し去ることで自己の存在感を高めようとしていると考えられなくもない。

彼の中東外交はさしあたり成功しているようである。オバマ時代に最悪になった米国とサウジアラビアの関係は劇的に改善し、サウジアラビアを最初の外国訪問地を選んだトランプ大統領はサルマン国王から大歓迎を受け 1,100 億ドルと言われる巨額の武器契約を取り付けたのである¹⁶。そしてカタールのウデイド空軍基地はイスラム国(IS)の偵察基地、攻撃発進基地として成果を上げている。これはシリア・アサド政権と結託し中東でのプレゼンスを高めていたロシアを抑え込む効果も発揮している。

米国ではティラーセン国務長官が紛争の調停に当たった。因みにティラーセンは国務長官就任前は国際石油企業ExxonMobilのCEOであった。ExxonMobilはサウジアラムコ創設時のメンバーであり、現在もサウジアラビアと深いつながりがある。同時にExxonMobilはカタールの天然ガス事業にも合併事業として参加している。このためティラーセンはCEO時代に頻りにサウジアラビアとカタールを訪問しておりそれぞれの事情に精通した第一人者である。

しかし外交問題の責任者としての国務長官とこれまでの民間企業CEOとではかなり勝手が違ったようである。ティラーセンはサウジアラビアとカタールそして仲介役のクウェイトを精力的に駆け巡るシャトル外交を展開したが思うような結果は出なかった¹⁷。

最近の報道ではクウェイトの調停が実を結んだのであろうか、UAEからは態度軟化のシグナルが出ている。そして 28 日にはカタールのタミーム首長が外交関係修復のための協議に応じるとテレビで演説した¹⁸。彼が一連の問題について発言するのは 6 月初めの国交断絶以来 1 か月半ぶりのことである。4か国とカタールが一刻も早く無益な対立を解消することを願うばかりである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

E-mail; areha_kazuya@jcom.home.ne.jp

携帯; 090-9157-3642

¹ Bahrain, KSA, Egypt and UAE cut diplomatic ties with Qatar

2017/6/5 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1110366/middle-east>

² MENA シリーズ 2 : 「MENA 諸国の人口と平均寿命」 (UNFDP 資料)参照

<http://menarank.maeda1.jp/2-T01.pdf>

³ MENA シリーズ : 「MENA ランク一覧表」 参照

<http://menarank.maeda1.jp/MenaRankGeneral.pdf>

⁴ King Salman, Sheikh Mohammed discuss regional situation

2017/6/3 Saudi Gazette

<http://saudigazette.com.sa/saudi-arabia/king-salman-sheikh-mohammed-discuss-regional-situation/>

⁵ Saudi, Egyptian FM discuss anti-terror cooperation

2017/6/5 Saudi Gazette

<http://saudigazette.com.sa/saudi-arabia/saudi-egyptian-fms-discuss-anti-terror-cooperation/>

⁶ 参考 : 「暗殺と背徳渦巻く国際犯罪都市ドバイ」 (2010 年 3 月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0136CriminalCityDubai.pdf>

⁷ 例えば「MENA 騒乱でサウジアラビアとカタールが見せた対照的な外交活動」 参照

<http://mylibrary.maeda1.jp/0177SaudiQatarDiplomacy.pdf>

⁸ Mauritania cuts ties with Qatar, Jordan to downgrade representation

2017/6/7 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1111061/middle-east>

⁹ Trump committed to working to de-escalate Gulf tensions

2017/6/6 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1110796/middle-east>

¹⁰ US says nearly \$110 billion worth of military deals inked with Kingdom

2017/5/21 arab News

<https://www.arab-news.biz/saudi-arabia/2017/05/20/us-says-nearly-110-billion-worth-of-military-deals-inked-with-kingdom/>

¹¹ Kuwaiti ruler and King Salman meet amid Qatar row

2017/6/6 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1110916/middle-east>

¹² Mohammed bin Salman named crown prince

2017/6/22 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1118211/saudi-arabia>

¹³ サウド家相続問題については下記レポート参照。

「迫るサウド家の世代交代」 (2010 年 11 月) :

<http://mylibrary.maeda1.jp/0162SaudRoyalFamily2010.pdf>

「迷走と暴走を繰り返す老国王」 (2015 年 9 月) :

<http://mylibrary.maeda1.jp/0354SaudiKingSalman.pdf>

¹⁴ GCC states ask Qatar to stop financing of terror: Report

2017/6/23 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1119316/middle-east>

¹⁵ Demands presented unreasonable: Doha

2017/6/25 Arab Times

<http://www.arabtimesonline.com/news/demands-presented-unreasonable-doha/>

¹⁶ US says nearly \$110 billion worth of military deals inked with Kingdom

2017/5/21 Arab News

<http://www.arabnews.com/node/1102646/saudi-arabia>

¹⁷ No light seen at the end of Qatar tunnel

2017/7/13 Saudi Gazette

<http://saudigazette.com.sa/article/512813/SAUDI-ARABIA/Rex-Tillerson>

¹⁸ Emir says Qatar ready to talk but "sovereignty must be respected"

2017/7/21 The Peninsula

<http://www.thepeninsulaqatar.com/article/21/07/2017/Emir-says-Qatar-ready-to-talk-but-sovereignty-must-be-respected>